




映画の夢を追いかけて

 関 桂子 (1986年卒業)

1 1986年に聖セシリアを卒業しました。高校の三年間、休日は同級生たちとよく映画を観にでかけ、「映画に関わる仕事をしたいなぁ…」という夢をみるようになりました。

上 智短大に進学し、卒業後は小さな貿易商社に就職しましたが2年で退職し、日本映画学校に進学し直しました。3年制の専門学校でしたので学費が大変でしたが、短編製作の実習はもちろん、古い名作を観る授業もあったり、平日の夕方は学友たちと映画や芝居を観に行ったり…今にして思えば“遊学”の感もありましたが楽しい毎日でした。

卒 業後は独立映画プロダクションの組合事務所に事務員として就職しましたが、その頃から「映画の脚本を書きたい」と思うようになりました。とはいえ、コンクールに応募しても、先輩プロデューサーに読んで貰っても、一向に芽はでませんでした。気が付けば40代、「もうダメだろうな…」と諦めかけていた頃、知り合いだった映画監督から「東北の震災を背景にしたマーチングバンドの映画を創る。脚本書く?」と、声をかけていただきました。



脚本制作した映画ポスターの前で



グラバー邸にて
左から須田さん、新川さん、ご本人

喜々として手を挙げましたが、プロの仕事は厳しいものです。監督の指導をうけながら何十回も書き直し、生活のための仕事とダブルワークで苦しい日々でしたが、なんとか書き上げ、『MARCHING-明日へ』というヒューマン音楽映画が完成しました。2014年に公開しましたが、時折ホール鑑賞会など企画していただいて上映が続いています。

「いつか映画を…」と願ったセシリアの高校生の夢は十年の時を経て実現しました。

諦めずにしつこく努力を続けて、ようやく一步を踏み出せる…どんな目標も仕事もそうだと、つくづく実感しています。

同窓生より

須田 和美さん
(1986年卒業)

「この写真使っていい?」と関さんよりメールが届きました。懐かしい写真を見るとセシリア時代を思い出します。

私は大学卒業後、数回の転職や留学を経て現在は人材派遣会社にて外国人の求職者を中心にお仕事の紹介をしています。一緒に写っている関さん、新川さんと進んだ道は違いますが、卒業から30年以上経った今でも連絡を取り合い、会える友人を得ることができたセシリアは私にとっての大切な宝物です。